

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第7回学協会長会議議事録

開催日時 : 平成24年10月2日(火)13時30分から15時40分

開催場所 : 東京大学地震研究所1号館3階会議室(東京都文京区弥生1-1-1)

出席者 : [学協会] 石渡明(日本地質学会・議長), 野村文明(日本応用地質学会), 西村進(日本温泉科学会), 津田敦(日本海洋学会), 中田節也(日本火山学会), 種村正美(形の科学会), 村上隆(日本鉱物科学会), 有川正俊(日本国際地図学会), 間嶋隆一(日本古生物学会), 小島紀徳(日本沙漠学会), 浦辺徹郎(資源地質学会), 加藤照之(日本地震学会/日本測地学会), 西脇二一(日本情報地質学会), 谷誠(水文・水資源学会), 兒玉裕二(日本雪氷学会), 角和善隆(日本堆積学会), 遠藤邦彦(日本第四紀学会), 牧野泰彦(日本地学教育学会), 丸井敦尚(日本地下水学会), 豊田栄(日本地球化学会), 川幡穂高(地球環境史学会/連合), 篠原育(地球電磁気・地球惑星圏学会), 田村俊和(日本地形学連合), 松永烈(日本地熱学会), 荒井良雄(日本地理学会), 竹内裕一(日本地理教育学会), 玉川英則(地理情報システム学会), 中尾征三(東京地学協会), 山崎淳司(日本粘土学会), 石郷岡康史(日本農業気象学会), 三ヶ田均(物理探査学会), 熊谷道夫(日本陸水学会), 山路永司(日本リモートセンシング学会), 田近英一(日本惑星科学会) [学術会議] 永原裕子 [連合] 津田敏隆, 木村学

議事内容 :

1. 前回議事録確認およびご出席者自己紹介

2. 新規加入学協会「地球環境史学会」の紹介

津田会長より、地球環境史学会からの9月20日付の入会申し込みを受けて、連合第5回理事会(9月28日開催)にて審議の結果、正式に入会が承認されたことの報告がなされた。地球環境史学会川幡会長より、学会の活動内容の概要説明および入会の挨拶がなされた。連合の団体会員数は49となった。

3. 日本地球惑星科学連合活動報告(津田会長)

1) 新体制の紹介

昨年度の代議員およびセクションプレジデント選挙を経て、新体制となった連合の新役員、セクションボードメンバーの紹介がなされた。引き続き学協会との共存共栄の方針である。

2) 2013年連合大会準備状況等について

2012年大会の報告と2013年大会の準備状況等の報告がなされた。

・9月3日より、セッション提案の受付を開始している。例年のペースではあるが、現在の提案数は26件のみであるので、最終的には前回並み(177)になるようご協力を願いたい。締切は10月26日(木)である。また、10月1日からは展示企画への出展者の募集も開始している。

・現会場が手狭になってきたため、より多くのスペースを確保するためにどうするかが問題になっている。具体的に2014年以降の大会について、他会場での開催の可能性やメッセ展示場を部分的に借りて10会場を増やしつつ会期を縮める案などかかる経費と照らし合わせ、年末までに結論がでるように検討する。

3) AOGS2014について

2014年7月28日から8月1日までの日程で札幌にて開催される。AOGSからの依頼で、LAC(Local Advisory Committee)を立ち上げる。連合からは会長、副会長、セクションプレジデント、北海道大学からは渡部重十氏、これに加え日本学術会議からも参加するように要請する予定である。コミュニティに広く参加を呼びかけるなど連合としてAOGS2014を成功に導くために協力をおこなう。学協会長会議においてもAOGS2014日本開催を盛り上げるべく協力をお願いしたい。財政的な支援の要請はない。

4) ジャーナル関連

連合の川幡理事よりジャーナル発行についての経緯と現状について詳細な報告がなされた。

・8月15日付けで、連合のジャーナルに関する現状や趣旨を理解していただくために、Q&Aをまとめて、理事、サイエンスセクションに配信するとともに連合のホームページへ掲載した。1万字以上で丁寧に説明しているので参照いただきたい。

・科学研究時補助金(研究成果公開促進費-国際情報発信強化-)での最大のポイントとなるオープン・アクセス電子ジャーナルについて、その概念、背景などの理解が不足しているので、本件について内外の動向を解説するとともに、ヨーロッパなども含めて将来のトレンドについて説明した。

・現在、科学研究時補助金(研究成果公開促進費-国際情報発信強化-)への申請準備を進めている。本科学研究時補助金に予算要求を予定されているJpGU参加学協会にも役立つと思い、申請書(案)に基づき、項目ごとに詳しい説明を行った。締切は11月16日ではあるが、機関を通じての手続きを考えて10月20日すぎにまとめることになる。申請後は来年5月にヒアリングがおこなわれる予定である。

・ジャーナルの創刊は平成26年1月、発行形態はオープンアクセスの電子ジャーナルとし、内容はレビューと連合大会での発表からセレクトした論文とする。特に、将来的には特別セッションなどを開催して、質の高い論文を掲載する新規試みなどを通じて、多くの学会にJpGUジャーナルを活用してもらう企画なども紹介された。現在、理事会メンバーが中心となってジャーナルの名称を決めている。

- ・ 今後の予定としては、10月初旬に JSPS を訪れ、申請に関するテクニカルな部分について質問するとともに、10月9日の JSPS シンポジウムに参加してさらなる情報を集め、10月初旬に「科研費成果公開促進費対応臨時委員会」を開催して、JpGU 参加学協会とも情報を共有することと伝えた。
- ・ 学協会あてに9月末までをめどでお願いしていたエディター、運営委員会メンバーについては、10月第2～3週に集まっていただき今後の方針などを検討する予定である。

4. 日本学術会議の近況報告

地球惑星科学委員会永原委員長より、現在取り組んでいる3つの重要課題について説明がなされた。

1) 地球惑星科学委員会提言作成

コミュニティに向けての発信も視野にいれて、以下の6つの枠組みについて作成していく。今年中に第1校をまとめ、年明けにパブリックコメント受付を経た上で、来年3月末までに発信を行う。

- ①地震学的理解と課題、②津波についての理解と課題、③福島原発事故による放射性物質拡散と課題、④自然災害リスクマネジメントにおける地球惑星科学の役割と課題、安全安心な国土基盤設計に向けて、⑥リテラシー教育。

2) 大型研究計画マスタープランの改定

2011年にマイナーチェンジされたものを改訂し、「大型計画」と「重点計画」の2つ策定をおこなう。スケジュールは、2013年2月公募、3月締切、4月公開シンポジウムを開催し提案課題を議論した上での評価選別、6月計画策定、12月重点計画策定、2014年完成の予定である。完成したプランについて、文科省に限らないフィードバックの方法も模索する。大規模な予算を希望するプランについては、コミュニティの保障があるものが望ましいので、提案者は研究・教育機関長、部局長、学協会長等を想定している。

3) 大学教育参照基準づくり

中教審の依頼に要請により、文章の作成とその内容の議論を進めている。大学の質保証と関連し評価基準として使われることを視野にいれている。大学の学習指導要領という位置づけとなり、後々この基準をもとに運用される現場が困らない内容になるように留意している。主目的は、学生が大学において身につけるべき基本的素養についての指針を作成することであり、細かいItemよりも概念の記述に重きを置くと思われる。

5. その他

- ・ 原子力規制委員会より、10月下旬に派遣する大飯原発周辺の調査団について、「日本活断層学会」「日本地質学会」「日本第四紀学会」「日本地震学会」へ委員推薦の依頼があった（石渡）。依頼のあった4学会（ただし活断層学会は欠席）から、現在はそれぞれ選出作業中であるとの報告があった。

- ・津田会長より、前回会議の連絡経緯の説明と連絡の不手際についてのお詫びがあった。
- ・日本地球化学会豊田庶務幹事より、2016年 Goldschmidt Conference (ゴールドシュミット国際会議)が日本で開催されることが報告された。
- ・次回は、平成 25 年 5 月 22 日(水) 12 時 30 分から 13 時 30 分、幕張メッセ国際会議場 302 号室にて開催予定である。

以上